

関東大震災朝鮮人虐殺と日本社会 ——虐殺絵に注目して

2023・2・11 東京労働会館ラパスホール 元専修大教授 新井 勝 紘

- 1 国立歴史民俗博物館の総合展示(第五展示室)の関東大震災展示 1995 タイトルから虐殺消える
- 2 東京都復興記念館での調査 → 江戸博の展示に活かされていない
慰霊堂の上の階が収蔵庫 関東大震災と東京空襲 未だ公開されていない資料が山積
本横小学校生徒の震災絵の発見 高田力蔵(図工の教員) 本横小は震災と空襲で2度焼失
アメリカからの救援物資 クレヨン・色鉛筆・画用紙/御礼を込めて、アメリカに送る → 戻ってくる
- 3 4年生男子の絵3枚「路上での誰何」と千葉県中山で「軍人と自警団が朝鮮人を追い詰める」
子どもにとって、何が一番怖かったのか。トラウマ
- 4 挿絵画家・河目悌二の水彩画 歴博出入り業者から新井研究室に持ち込まれる 1995
業者間の専門市に出品/第五展示室開室後/作者の名前なし/死後、絵は公開するなど遺言
- 5 萱原白洞の絵巻物 歴博出入り業者から新井研究室に持ち込まれる 1996
業者間の専門市に出品/河目の絵の翌年/東と西から同時に表にでる/京都北野天満宮の骨董市
→この二作品 歴博では公開されたことなし 企画展「歴史に見る震災」2014・3～ 虐殺には触れず
- 6 認定NPO法人「高麗博物館」での展示 2003と2018「描かれた朝鮮人虐殺と社会的弱者—記憶・記録・
報道」/民間の市民組織だからこそ展示可能・河目悌二と萱原白洞の虐殺絵 初めて展示
- 7 堅山南風の「大震災実写図巻」卷子3巻 1925 2019年 半蔵門ミュージアムで40年ぶりに展示
「この惨状を描かんとして、筆渋りて動かざること屡なりき」→ 単なる天災ではない
- 8 ヤフー・オークション(通称ヤフオク) 2021・2・25
「関東大震災絵巻1・2 大正15年 肉筆 淇谷」が出品 最後のデットヒートで新井が落札 97000円
虐殺絵が含まれていることは、家に届いてから知る。(上巻14巻、下巻18巻と長い巻物)
 なぜ、こんな巻物が、一世紀も外に出なかったのか。なぜ今、世の中にでてきたのか。
 淇谷という画家は何物か。→国立国会図書館の次世代デジタルライブラリーで検索
大原彌市(1862～1945) 福島県西白河郡泉崎村出身・同郡西郷村の小学校で教師経験
● “淇谷から、私にバトンを渡された”という心境
- 9 巻物には長文の「自序」が付されていた
 「同時に恐るべき流言蜚語は興奮を極めつゝある市民の神経をなやまし、武器を掲げて各自衛する
に至らしめたり、これは前代未聞の恐慌なり。」
 「此の惨禍に遭遇せざりし多数の人々に示し、以て省慮の念を促し、或は後世、紀念の一片と為すに足ら
ば、余輩の希望是れ達せるなり。」(自序より) →「省慮」とは
- 10 一世紀を経て「虐殺絵」から何を読み解くか
① 虐殺は公然と行われた ② 官民一体の行為 ③ 流し続けたマスコミの流言蜚語 ④ 地域での
タブー視 ⑤ 歴史として伝わっていない ⑥ 「虐殺」に触れない、消える ⑦ あえて描いた画家が
いた ⑧ なぜ描いたかを問うべき、汲むべき ⑨ 官の責任と民の責任 ⑩ 民の差別意識の克服
- 11 『関東大震災 描かれた朝鮮人虐殺を読み解く』(新日本出版社 2022年8月)